人生を豊かにするために

Shintoshin Weekly

〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2 ハイアット リージェンシー 東京11階

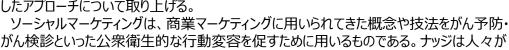
TEL: 03-3340-3555 FAX: 03-3340-3554

会長 小川恵司 幹事 伊豆隆義 創立:1988年9月21日

「マーケティングと経済学で健康を守る」

公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学 教授 山本 精一郎 氏

がん予防やがん検診は、がんで苦しむ人を減らすために重要な方法である。しかしながら、 これらについては十分に科学的根拠(エビデンス)があるにもかかわらず、必ずしも十分に 実践されていない(エビデンス・プラクティスギャップ)。禁煙などのがん予防やがん検診 受診などはすべて個人の行動変容を促すものであり、近年、行動変容を促すには従来の 「教育的アプローチ」では十分でなく、「環境的アプローチ」への変化が必要とされてきた。 なかでも、従来のモデルや理論に新たな行動科学的なアプローチを加味したアプローチの 効果が期待されている。ここでは、そのなかでも、ソーシャルマーケティング及びナッジを利用 したアプローチについて取り上げる。





No.9

行動を選択するときのくせ(惰性・バイアスなど)を理解して、強制することなく、選択の自由を確保した上で、人々 が望ましい行動を選択するように導く行動経済学的なアプローチである。望ましい行動という点で、公衆衛生政策や 保健政策との相性がいい手法といえる。これらの方法は、コロナ対策の中でも活用されてきた。

今回は、がん検診の受診率向上プロジェクトを例に、ソーシャルマーケティングに加え、ナッジなどの行動経済学的 方法を活用した行動変容へのアプローチについて紹介する。

<プロフィール>

名前:山本 精一郎(やまもと せいいちろう)

現職:公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学教授

国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所特任研究員

山本精一郎は、1996年に東京大学大学院にて博士号を習得し、同年4月より国立がんセンターに就職し、 以降25年間、同センターにてがんに関する研究や実践を行ってきた。これまで、生物統計家としての専門を 活かし、日本最大のがん多施設共同臨床試験グループである日本臨床腫瘍研究グループJCOGの統計担当 として、標準治療確立に貢献してきたとともに、大規模コホート研究の事務局として、全国14万人規模の追跡 研究を行い、がんリスクファクターの研究を行ってきた。最近においては、共同研究者の溝田友里とともに、世界 最大の乳がん患者のコホート研究を構築し、がん患者のサバイバーシップ充実のための研究を行うとともに、 エビデンスがあるのに実施されていない、がん予防やがん検診のエビデンスとプラクティスギャップを埋め、それらを 全国に普及する研究を行っている。2019年から世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターに出向後、 国立がん研究センターに戻り、この10月より静岡社会健康医学大学院大学に教授として赴任し、これまでの 経験を活かし、教育とともに、市区町村や県の健康問題に取り組んでいる。

2021年12月1日(水)第1494回例会

「マーケティングと経済学で健康を守る」 公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学 教授 山本 精一郎 氏 (紹介者 吉田 寿人会員)

2021年12月8日(水)第1495回例会

「個の印象を管理する重要性」 有限会社キャステージCEO 印象戦略コンサルタント 乳原 佳代 氏 (紹介者 半場 慎一 会員)